

人権委員会だより

人権委員会より、今回は令和 6 年 1 月 18 日（木）に八尾支援学校にて実施された人権研修「子どもを健やかに育むことは～教室マルトリートメントを防ぐために～」について報告いたします。なお、本研修は、保護者の皆様も参加可能となっており、当日は各学部から計 6 名の方が参加してくださいました。ありがとうございました。

1. はじめに

本研修は、大阪府教育センター支援教育推進室から麻生川 理詠指導主事に講師としてお越しいただきました。「子どもを健やかに育むことは～教室マルトリートメントを防ぐために～」をテーマに、身近な子どもたち（児童・生徒・我が子）との関わり方についての講話をしていただきました。

マルトリートメントとは、1980 年頃にアメリカで広がった表現です。マル(悪い)+トリートメント(扱い)＝「不適切な療育」と訳され、家庭における不適切な療育を表しています。本研修では、学校現場での不適切な指導についての書籍「教室マルトリートメント(川上康則, 2022)」の内容を基盤に、マルトリートメントを防ぐためにできることについて考えていきました。

2. 自己理解から子ども理解へ（麻生川指導主事の話より抜粋）

はじめは優しく言葉かけしていたのに、変容しない子どもに対して怒りを感じたことはありませんか？教員や親にも、それぞれの背景があり、それによって心情は変化していきます。心理学の視点から人の心や考え方について考えてみましょう。「認知バイアス」という言葉をご存じでしょうか？私たちの考え方のクセ(偏見、先入観など)のようなものです。「ピザって 10 回言って…」などで知られる 10 回クイズは、「プライミング効果」という認知バイアスを用いたものです。

子どもに指示が伝わらない(言うことを聞いてくれない)時に、威圧的・高圧的に指導したり、子どもが自信をなくすような叱責をしてしまったり…といった不適切な子どもとの関わりも「自分がやっていること(指導)は正しい」、「多くの人が私と同じやり方をするはずだ」といった認知バイアス(フォールス・コンセンサス)が、関わっているかもしれません。子どもの人権を守るためには、誰しも「認知バイアスがある」ということを理解し、「なんでできないのだろう?」、「どうすればできるかな?」と、子どもの気持ちや状態を理解しようとする姿勢が大切です。そうすることで、指導者(教員、親)が落ち着いて対応することにつながり、不適切な関わりを予防することができるのではないのでしょうか。



【様々な認知バイアス】

プライミング効果…直前に聞いたことで判断が左右される
バーナム効果…占いが当たっていると感じる
フォールス・コンセンサス…自分と同じ考え、同じ行動をする人への割合を過大評価する傾向
他にも、ハロー効果、ピグマリオン効果、ステレオタイプなど

3. 効果的な支援方法として ポジティブ行動支援＝PBS (Positive Behavioral Supports)

ポジティブな方法で支援を行う、「ポジティブ行動支援」を紹介していただきました。肯定的・予防的な関わりで支援する方法です。また、行動の4つの機能を基に、行動の前後関係への関りに着目することで適切な行動を増加させる支援方法も紹介いただきました。子どもの行動の背景に思いを巡らせ、多角的な視点で子どもを理解することが大切です。「子どもの得意、不得意」の話では、「どの子どもも、時間をかけてでこぼこしながら育つもの。気になる部分に着目するのではなく、伸びしろを見て育てる」と考えることも、不適切な関わりを予防することにつながると教えていただきました。

4. まとめ

時には、子どもを注意しなければいけない時もあります。そういった場面では感情が高まりがちです。その言葉、態度は子どもの人権を守っているか、育ち(学び)につながるものかを、今一度考えてみましょう。私たちは、「子どもの心を育てている大人」です。また、普段から意見交換、相談しやすい環境は、「マルトリートメント」が起こりにくいでしょう。学校全体で雰囲気作りに取り組んでいくことが大切です。

今後も子どもの人権について考え続け、皆様で「マルトリートメント」を予防していきましょう！

